

2015 年度

聖学院大学
人間福祉スーパービジョンセンター
年次報告書

聖学院大学総合研究所

はじめに

聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科の教員メンバーが中心となって、聖学院大学総合研究所人間福祉学研究センターのなかに、「聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター」が発足したのは、2007年のことである。

大学を卒業して、福祉の現場等で働く卒業生を勇気づけ、また、現場の知恵を大学に還元して、よりよい福祉教育を大学で実践・研究できること、あわせて、卒業生に限らず、地元・近県の福祉関連従事者にも還元して、地域貢献ができればとの目標があったように思っている。

2008年3月1日には、発足会が、当時、埼京線北与野駅前にあった、「新都心ビジネス交流プラザ聖学院大学教室」を拠点に、「聖学院大学スーパービジョンセンター発足会」が開催された。あれから、8年余が過ぎた。大学と、大学をとりまく環境も、僅か8年の間に大きく変わった。しかし、当初からの目標・目的は変わっていないであろう。

2015年度の特記事項としては、

1. グループスーパービジョンのスーパーバイザーとして、長年、ご指導下さった柏木昭先生（聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授）が2015年度をもって、ひとたび退かれ、田村綾子先生が後任のスーパーバイザーを担当されることとなった。

2. いままで、グループスーパービジョンを受講された方に、修了証（受講証明書）を発行することとなった。（受講者のキャリア・アップの助けになればと願っている。）

などである。

なお、2015年度は、10月10日（土）に聖学院大学4号館会議室において、第16回ピア・スーパービジョンが、2016年2月13日（土）には、同じく第17回ピア・スーパービジョンが開催された。第16回の記録は、総合研究所ニュースレター Vol. 25, No. 2, 2015年、19-20頁に報告されている。

運営委員として今年度も、卒業生の山田裕太氏、深瀬久博氏、川田法子氏、秀村智香氏、片岡優氏をはじめ、新たなメンバーも加わった。今後のさらなる活躍に期待したいと思う。

また、創立以来、総合研究所事務局研究支援課のスタッフの皆様には、多くの業務の中で、SVCの運営に、多くのご支援をいただいていることを感謝申し上げたい。

2016年4月

聖学院大学

人間福祉スーパービジョンセンター長

中村 磐男

目次

I. 事業概要	3
1) 目的	3
2) 実施体制	3
3) 報告書様式	4
II. 事業実績	5
1) スーパービジョンセンター委員会.....	5
2) スーパービジョン事業	6
(1) グループ・スーパービジョン.....	6
(2) スーパーバイザー支援制度グループ版.....	8
(3) 個別スーパービジョン.....	8
(4) スーパーバイザー支援制度.....	8
(5) ピア・スーパービジョン.....	9
III. 2015 年度予算.....	10
IV. 決算（2015 年 3 月 31 日）	10
資料 1	11
資料 2.....	19
資料 3.....	21
資料 4.....	23

I. 事業概要

1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない(バーンアウトしない)ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー(熟練したソーシャルワーカー*)が、スーパーバイジー(経験の浅いソーシャルワーカー)に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

2) 実施体制

<プログラム>

- 個別スーパービジョン
スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン(原則毎月1回程度)
- グループ・スーパービジョン
スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン(毎月1回)
- 研修交流会 ピア・スーパービジョン(年2回開催)
主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会
- スーパーバイザー支援制度
すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

<場 所>

聖学院大学 他

<担 当 者>

柏木 昭	聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長、人間福祉スーパービジョンセンター顧問
助川征雄	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授・学科長
相川章子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授
田村綾子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授、公益社団法人日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長・認定スーパーバイザー
大野和男	NPO 法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦理事長、社団法人日本精神保健福祉士協会相談役、元聖学院大学非常勤講師
行實志都子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科准教授、元聖学院大学非常勤講師
廣江 仁	社会福祉法人養和会 障害福祉サービス事業所あんず・あぷりこ施設長 (2015年現在)

* 熟練したスーパーバイザーとは、(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

3) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイザー氏名		(GSV 記入)	人
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ()		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名)		
	②		
	③		
	④ その他 ()		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額 (支払方法)	会計担当	事務担当

II. 事業実績

1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会：5月20日（水）11：30～12：50

場 所：3号館3204室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

欠席者：相川章子

事務局：木下元、山本悦子（記録）

第2回委員会：7月8日（水）11：30～12：30

場 所：3号館3204室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、山本悦子、小野逸穂（記録）

第3回委員会：10月14日（水）11：30～12：30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

第4回委員会：1月27日（水）12：10～13：00

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

欠席者：相川章子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

第5回委員会：2月25日（木）11：00～12：00

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

各回の内容については、後ページ【資料1】内に掲載する。

2) スーパービジョン事業

(1) グループ・スーパービジョン

<柏木 昭>

●聖学院大学 4 号館 4405 教室 原則毎月第 2 金曜日 18:30～20:30

開催日		実施内容、報告者、所属他
第 1 回	2015 年 6 月 12 日	オリエンテーション
第 2 回	2015 年 7 月 10 日	F 介護老人保健施設、精神保健福祉士
第 3 回	2015 年 8 月 14 日	F 介護支援専門員
第 4 回	2015 年 9 月 11 日	F 病院、精神保健福祉士
第 5 回	2015 年 10 月 9 日	M 社会福祉法人児童発達支援学園、施設長
第 6 回	2015 年 11 月 13 日	F 障害者総合支援法生活施設
第 7 回	2015 年 12 月 11 日	F 介護老人保健施設
第 8 回	2016 年 1 月 8 日	F 準総合病院
第 9 回	2016 年 2 月 12 日	F 生活支援センター
第 10 回	2016 年 3 月 11 日	F 医療法人自立訓練施設

実施回数:10 回 人数:9 名 (F : 女性、M : 男性)

スーパービジョンセンター委員会 (2/25/2016) において、来期から本グループスーパービジョンは大学田村綾子教授に引き継ぐことを、助川征雄教授を通して依頼することの決定がなされている。

<田村綾子>

場 所:さいたま市

実施回数:2 回

人 数:基礎編(半日) 48 名

応用編(1 日) 22 名

場 所:聖学院新館(駒込)

実 施:2 日間

人 数:実践報告、事例演習 3 名

総 括

●さいたま市社協スーパーバイザー養成基礎研修

2013 年度から数えて 3 回目となる、さいたま市社会福祉協議会主催の「スーパーバイザー養成研修基礎講座」を実施した。内容はこれまで同様 2 日間コースとし、初日は講義(スーパービジョン概論)とグループ討議を交えての半日間、2 日目は初回の受講から約 2 か月間職場でスーパービジョンを試行し、そのレポートを作成して講義(スーパービジョンの課題)と事例演習を 1 日かけて行うプログラムである。初日のみの参加も可能とした。

受講者はさいたま市内の高齢者施設・障害児者施設・保育施設等に勤務する職員で、社会福祉士や精神保健福祉士、保育士などの資格所持者も一部いたものの、多くは無資格であった。受講動機は、職場から管理業務を期待されるため、後輩や部下の指導に役立てたいというものが多かった。早期離職を防ぎ、やりがいや自信をもって働く者を支えたいという思いが表れていた。

会を重ねるごとに受講者数は増加しており、初日が 48 名、職場でのスーパービジョンを実

施して2日目に臨んだ受講者は22名で、いずれも前年に比べ約2倍であった。2日目を修了した者からは「1回目と2回目の間に実際にSVをしてみたので、実施して初めてわかることがあった」「一人一人の職員をより良く理解するようにしていきたい」といった感想が多く、座学のみではなく実践に基づく体験的な研修の有効性を実感できた。

受講者のアンケート結果は、職場で活かせる内容であったという回答が約9割で、全体として好評であった。OJT (on the job training) とスーパービジョンの混同は例年みられることで、今回の研修でも管理職等の立場で部下の教育訓練・指導を担う職員が多かったため、その方法論の習得を目的として受講している者も多かったようである。しかし、部下の専門職者としての力量を伸ばすための丁寧なかかわりであるスーパービジョンの意義を学ぶことで、後輩や部下のサポートにおいて新たな発想をもって向き合うことができるという可能性を見出し、受講者がエンパワメントされる研修になったと思われる。

今回の参加者は年代としても中堅と思える方が多く、忙しい福祉現場の第一線で日々奮闘しながら、人事管理や職員教育の重責も担うことへの負担感を抱えている様子がグループ討議における発言からうかがえた。自身がスーパービジョンを受けたい、という声も例年に比べて多かった印象である。こうしたところからは、福祉の利用者が増大し支援ニーズも拡大する一方で、マンパワー不足や無資格及び知識・技術の乏しい職員が、必ずしも十分とはいえない待遇のなかで現場を支えている実態が垣間見えた。こうした状況下でも福祉従事者一人ひとりが自尊心を向上させ、力量を高めることでより良い支援の実践に、本研修が側面的に寄与できればと考える。

さいたま市社会福祉協議会では本研修を今後も継続する予定とのことであり、来年度に向けてはプログラムを一部改編し、より多くの方に実践編へ臨んでもらえるように内容のさらなる充実を図りたい。

●四国更生保護委員会

2013年度より、四国更生保護委員会からの委託事業として行っている「上席社会復帰調整官のためのスーパーバイザー養成研修」で、今回は3回目となる。毎年、人事異動があるため今回の参加者は3回目の者2名と、他地域から異動してきた者1名の3名であった。

社会復帰調整官は、2003年に大阪で起きた池田小学校事件を一つのきっかけとして心神喪失者等医療観察法(略称)が制定され、その中で重要な役割を担う職業として創設された職務である。この職業に就く者の多くは精神保健福祉士としての現場実践経験を有しているが、今回の参加者は2名が精神保健福祉士、1名は基礎資格が看護師であった。

研修内容は、予め各研修生が個別スーパービジョンを他保護観察所の新任調整官に対して3回ずつ行い、そのレポートを持参して行うスタイルである。ただし、今回は他所から異動してきた看護師資格の調整官については、スーパービジョン概論を受講できていないため、受講者間での伝達講習を経てから、個別スーパービジョンが実施された。研修は1泊2日で行い、それぞれに取り組んだスーパービジョンの実践報告と、それに基づく事例演習を行った。

今年度は、スーパーバイザーにあたる者たちが全員、昨年度も個別スーパービジョンを経験していることから、スーパーバイザーに助けられながら実施した者もあり、スーパービジョンにおける相互主体性が発揮された内容にもなっていた。次第に、四国地区での保護観察所内でのスーパービジョンが根付いてきていることを感じる報告であった。特に受講3年目になる2名は、いずれもこれまでの学びを活かして、スーパーバイザーのありのままを受け入れ等身大での最善を尽くそうする姿勢が随所にみられ、レポートからは、これまで以上に深い自己洞察がなされていた。経年で研修を実施してきた成果の手応えを受講者とともに喜ぶことができた。初受講者については看護師経験の中ではOJTの経験しか有さず、今回初のスーパービジョン実践となり、肩に力が入った実践となっていたものの、実践報告をもとに当日行ったグループス

ーパービジョンにおいて、スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの姿勢や着眼点を体験的に理解できたようであった。

また、例年述べられる所感ではあるが、自職場でのOJTの有用性の再認識と、スーパービジョンは職場外で実施する方が取り組みやすいという感想が今年も上がっていた。予算の確保や業務内への位置づけの整理などの課題もあるが、今後研修という形を離れても、本研修のエッセンスを活用して、少人数職場における専門性の高い実践をささえるために、四国4県の保護観察所が連携して支え合う仕組みが定着することを期待したい。

なお、本研修の事業受託契約にあたっては、学長支援室（現秘書課）寺島氏にも多大なご尽力をいただいたほか、今年度は受講者が本学に来校して開催したため、駒込新館会議室の利用手配等で総研及び駒込の職員各位にもご配慮いただき、円滑に実施できたことを感謝したい。

(2) スーパーバイザー支援制度グループ版

＜柏木 昭＞

●横浜市戸塚区 通称“柏木サロン” 原則第4火曜日

開催日		報告者、所属他
第1回	2015年12月22日	F 地域活動支援センター
第2回	2016年1月26日	M 精神科病院
第3回	2016年2月23日	F 精神科診療所
第4回	2016年3月22日	F 市役所支援課 福祉士事務所長

実施回数:4回 人数:4名 (F:女性、M:男性)

参加者はそれぞれ現場でスーパービジョンを実施しているが、今期はスーパービジョンそのものに焦点を当てるのではなく、精神科ソーシャルワーカーとして担当した事例について検討がなされた。来年度から2名増員の予定である。

(3) 個別スーパービジョン

＜助川征雄＞

実施回数：延べ17回
場 所：助川研究室
人 数：2名

＜田村綾子＞

実施回数：延べ3回
場 所：田村研究室
人 数：2名

＜相川章子＞

実施回数：延べ3回
場 所：相川研究室
人 数：1名

＜大野和男＞

実施回数：延べ6回
場 所：4号館4405教室
人 数：1名

(4) スーパーバイザー支援制度

＜相川章子＞

実施回数：4回
場 所：相川研究室
人 数：1名

＜田村綾子＞

実施回数：3回
場 所：田村研究室
人 数：1名

(5) ピア・スーパービジョン

①第16回ピア・スーパービジョン

日時：2015年10月10日（土）10：00～15：30

場所：聖学院大学4号館4階第一・第二会議室

人数：18名（関係者含む総人数）

内容：第一部 講演「スーパービジョンのすすめ」

講師 柏木 昭（聖学院大学名誉教授・聖学院大学総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問）

鼎談 柏木 昭・深瀬久博 098W094・川田法子 104W093

SWnet 主催ランチ交流会（参加の場合：実費1,000円程度）

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 助川征雄（聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR）

グループディスカッション

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

講演/鼎談司会 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

②第17回ピア・スーパービジョン

日時：2016年2月13日（土）10：00～15：30

場所：聖学院大学4号館第一・第二会議室

人数：21名（関係者含む総人数）

内容：第一部 講演「人生の岐路——20代、30代および40代を顧みて」

発題者 中村磐男（聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長）

パネルディスカッション

パネラー 柏木 昭（聖学院大学名誉教授 人間福祉スーパービジョンセンター顧問）・中村磐男（発題者）・秀村智香（102W094）
・片岡優（106W026）

コーディネーター 相川章子（聖学院大学人間福祉学科教授）

SWnet 主催 ランチ交流会（参加の場合：実費1,000円程度）

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

グループディスカッション

総合司会 山田裕太（SWnet 98W）

ピア・スーパービジョンプログラムは、後ページ【資料2】内に掲載する。

III. 2015 度予算

【収入】

項 目	内 容	金 額
受講料	グループ・スーパービジョン（新規）	480,000
	グループ・スーパービジョン（卒業生・継続）	120,000
	個別スーパービジョン	90,000
	個別スーパービジョン（卒業生）	10,000
合 計		700,000

【支出】

項 目	内 容	金 額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー謝礼	320,000
消耗品費	色上質紙、コピー用紙	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	350,000
通信・運搬費	グループSV, ピアSV 案内送付	140,000
印刷製本費	リーフレット増刷	90,000
集会費	スーパーバイザー情報交換会	0
賃借料	グループSV会場費	40,000
合 計		940,000

IV. 2015 決算（2016 年 3 月 31 日）

【収入】

項 目	内 容	金 額
受講料	グループ・スーパービジョン	230,000
	個別スーパービジョン	114,000
	個別スーパービジョン（卒業生）	20,000
	スーパーバイザー支援制度グループ版	120,000
	スーパーバイザー支援制度	56,000
合 計		540,000

【支出】

項 目	内 容	金 額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー謝礼	361,600
消耗品費	色上質紙、コピー用紙	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費 ※備考1	49,220
通信・運搬費	グループSV, ピアSV 案内送付 ※備考2	94,736
印刷製本費	リーフレット増刷なし（残400枚）、名刺作成	5,184
集会費	スーパーバイザー情報交換会	0
賃借料	グループSV会場費（大学で実施のため未使用）	0
合 計		510,740

※備考1 予算に石川GSV宿泊、交通費を見込んでいたが、実施なし

※備考2 PSV（2/13）チラシ発送費は、東日本大震災国際神学シンポジウム予算から支出

【資料1】2015年度 スーパービジョンセンター委員会記録

第1回委員会：5月20日（水）11：30～12：50

場 所：3号館3204室

出席者：柏木 昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子

欠席者：相川章子

事務局：木下 元、山本悦子(記録)

I. 前回議事録承認

II. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

助川 2名実施

相川 2名予定

田村 1名継続(不定期) 今年度から本学院生

廣江 次回確認

※スーパーバイザーになれる能力のある方々を委員会において、SVR認定ができる形を検討していく。スーパーバイザー支援制度に勤めるとともに、修了後には認定をする、などの認定基準の制定も踏まえ、今後、継続課題として検討することが挙げた。

※個別SVの受講申込みをされた方の担当について、希望スーパーバイザーを確認する。

2. スーパーバイザー支援制度

相川：1名申込有

田村：昨年度の方は終了、今年度は実施無し

3. グループ・スーパービジョン

柏木 聖学院大学：4号館4階4405教室

6月から翌年3月まで計10回開催予定(4月告知済)、1名申込有だが、申込者が満たないため、2～3年前に受講された方へご案内の再送をする。助川先生からのご紹介者2名予定有。開催の有無は、最終的な申込状況をみて判断をする。既に申込みをされている方への連絡は6月に入ってから行う。

石川県：野々市こころのクリニック (石川県野々市)

開催は石川県の現況を踏まえ、動向次第で進めることとする。

助川 さいたま市保健所 今年度は3回実施予定 日程調整中

相川 杜の家

4. その他

田村 ・さいたま市社協

スーパーバイザー養成基礎講座を年2回 7/29、10/5 に実施予定。第1回のみの受講可能、受講後実践をし、レポートをもって第2回を行う。

・四国社会復帰調整官

スーパーバイザー養成研修を2016年2月15日駒込にて開催予定。

Ⅲ. 検討事項

1. PSVについて(10/10、2016/2/13実施予定)。
開催日程の確認をした。
2. 石川県について
2-(3)のとおり。
3. 報酬について
個別SVの受講料と報酬料の差額についての見直しは、継続課題とする。
4. 年次報告書について
ご確認のうえ、5月末迄山本へご連絡下さい。6月中旬SERVEへアップ予定(6月17日、図書館にSERVEへのアップを依頼した)。
5. 委員会開催予定について：第2回7/8(水)、第3回9/16or30、第4回1/20(水) 第5回?!
次の開催日のみを確認した。

第2回委員会：7月8日(水) 11:30~12:30

場 所：3号館3204室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本 修、小野 逸穂(記録)

I. 前回議事録承認

II. 報告事項

1. 個別スーパービジョン
助川 2名実施
相川 1名予定
田村 実施無
廣江 今年度は終了

※実力のある(OJT等している)方々へ、認定スーパーバイザーをすすめる又は、スーパービジョンセンター認定を作る等の提案

※柏木先生よりKさんへ、スーパーバイザー支援制度への移行や認定スーパーバイザーの事をお話いただくこととする。

2. スーパーバイザー支援制度

相川：Mさん 契約面談済、日程調整中。

田村：希望者(昨年度利用者Eさん)と面談。職場との調整後、申請書提出予定。

3. グループ・スーパービジョン

柏木 聖学院大学：4号館4階4405教室 第1回6/12(金) 9名で実施

石川：石川県が、精神保健福祉士協会の事業として企画している。今後、柏木先生へ講演の依頼等。

助川　さいたま市保健所：精神保健福祉士研修　PSW ではない方も含め 20 名程で、事例を通した研修会を行った。

相川　杜の家：研究室にてピアスタッフやピアサポートの養成のため、文献講読等勉強会を行った。

※中村先生より、上記活動は、さいたま市や上尾市との協定を意識した活動として、地域連携ボランティア支援課と連携（学生有償ボランティア等）してはどうかという提案。

※中村先生より、グループ・スーパービジョンの修了証発行の提案。

Ⅲ. 検討事項

1. PSV について　：案内発送 9 月上旬　。学科との共催を学科会（6/17）で検討。

＜タイムテーブル案＞

日時：10 月 10 日（土）　場所：4 号館第一会議室、第二会議室

10：00-11：00　柏木先生講演　・発題確認

11：00-　　　　柏木先生、深瀬さん、もう一人卒業生との鼎談

12：00-　　　　Swnet ランチミーティング（立食）

・会費（卒業生 1000 円、在学生無料、お弁当等持参可）

13：00-16：00　グループ・スーパービジョン

導入　助川先生、参加者自己紹介

・チラシ内容等詳細の検討は相川先生とすすめる

※案内発送先の検討

- ・14 年度発送先（13 年度卒業生、以前の SV 参加者、近隣病院、近隣保健所、児童相談所、近隣福祉施設、後援行政　等　約 700 通）
- ・学内他部署で 9 月初に発送予定はないか？
- ・過去データ 2001-14 卒業　1200 人　（内 14 卒業 80 人）

※託児ボランティアの検討

※10/10 オープンキャンパス有り

2. 報酬について

・次回検討

3. 年次報告書について　：6/17 図書館に SERVE へのアップを依頼した。

第 3 回委員会：10 月 14 日（水）11：30～12：30

場　所：4 号館 4405 室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、相川 章子、田村 綾子

事務局：辻本 修、小野 逸穂(記録)

欠席者：助川 征雄、木下 元

I. 前回議事録承認

II. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

助川 2名実施

相川 1名実施

田村 1名調整中

大野 1名実施

2. グループ・スーパービジョン

柏木 聖学院大学：(今年度より大学で実施) 9名 6/12、7/10、8/14、9/11、10/9 第5回まで実施

石川：大学院卒業生のIさんが引継いでいる

助川 さいたま市こころの健康センター

相川 杜の家（月1回研究室でピアサポーターのGSVを実施、アドバイザー契約）

3. スーパーバイザー支援制度

相川 Mさん 8/26 10/27 予定（3カ月に1度実施予定）

田村 Eさん（前年度受講者）→9月受講申込提出、10月初回予定。

4. その他

10/10PSV 報告：今回の形態（講演会、ランチミーティング、PSV）は内容が充実し意義のあるものになった。次回PSV（2/13）もこの形態でおこないたい。

III. 検討事項

1. スーパーバイザー支援制度グループ版（新規）について

柏木先生に内諾の依頼があった神奈川県精神保健福祉スーパービジョン研究会会員4名の新規受講に関し承認された。開始は11月24日（火）から毎月第4火曜日実施予定。田村先生が詳細（場所、費用支払い等）の調整に入る。柏木先生への謝金設定について検討する。

2. 第17回ピア・スーパービジョン（2/13(土)開催）について

相川先生より、第16回PSVと同じくSwnet共催、講演+鼎談、ランチミーティング、PSVとする提案がされた。Swnetから中村先生のご専門（公衆衛生）に関する講演の依頼あり、中村先生が快諾された。詳細について相川先生と詰めていく。助川先生は渡英のため当日は欠席。1月上旬には、告知予定。チラシ発送先は前回同様直近7年の人間福祉学科卒業生と今までのSV参加者とする。

3. 報酬について

報酬委託の赤字を是正するため、例えば次年度から個別SVの卒業生の費用2,000円を一般と同額の6,000円にすることを提案（個別SVの報酬は一律5,000円）。次年度予算に向けSVC全体のバランスも見て中村先生、相川先生と検討する予定。

4. グループ・スーパービジョン修了証について

- ・受講者名簿の確認
⇒2012 年度から今年度までは名簿有（但し申込当時の住所）送付可能。
⇒2008～2011 年度までは名簿無（申込書類と年次報告書を確認したが、継続の場合、申込書類が未提出等あるようで人数が合わない）→入金確認等の手段で継続確認中。
→柏木先生の名簿と合わせて確認する。
- ・修了証のデザイン確認 →2 パターンの内、一般的な修了証のデザインで承認。
- ・柏木先生の名前をスーパーバイザーとして入れる等、文面を中村先生へ相談する。
- ・中村先生へ修了証に添える手紙を作成依頼。出来る範囲をまず発送する方向で検討する。

第4回委員会：1月27日（水）12：10～13：00

場 所：4 号館 4405 室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、助川 征雄、田村 綾子

欠席者：相川 章子

事務局：木下 元、辻本 修、小野 逸穂(記録)

I. 前回議事録承認

II. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

助川 2 名実施
相川 1 名実施
田村 実施なし
大野 1 名実施

2. グループ・スーパービジョン

柏木 聖学院大学：9 名 11/13、12/11、1/8 第8回まで実施、今後の予定は2/12、3/11

石川（本年度から石川県精神保健福祉士協会にて、I さん(大学院卒業生)が引継いでいる）

助川 さいたま市こころの健康センター

相川 杜の家（月 1 回研究室でピアサポーターの GSV を実施、アドバイザー契約）

3. スーパーバイザー支援制度

相川 Mさん 10/27、1/21、3/30（予定）
田村 E さん（前年度受講者）9 月受講申込提出

4. スーパーバイザー支援制度グループ版

柏木 横浜市戸塚 4 名 11/24 実施、最終回 3/22（予定）、毎月第 4 火曜 全 5 回

◇田村先生が参加者と下記の通りご調整くださった。

- ・利用費：6,000 円/人×5 回実施×4 人＝12 万円（欠席の場合も合計 30,000 円/人）
- ・場所：参加者が設定
- ・受講申込書：請求書はまだ未発送。1 名の提出を待っている状況。

◇中村先生へ謝金についてご相談し下記の通りとした。

- ・現在、個別SVは5,000円、グループSVは10,000円、SVR支援制度は5,000円、よってSVR支援制度グループ版は10,000円 ◇今回の謝礼合計：50,000円（5回分）+交通費（横浜市戸塚）

Ⅲ. 協議事項

1. 年次報告について

- ・＜はじめに＞を中村先生へ依頼→了承、＜GSV総括＞柏木先生へ依頼→了承。近く前年度のコピーと共に事務よりご依頼予定。
- ・例年同様、年次報告書に総合研究所NLのPSV報告書を掲載する。
- ・例年同様、年次報告書をSERVEにUPする。

2. 次年度の活動について

- ・GSV募集について（2015年は4月発送→5/30締切 二次募集→6/3締切）
柏木先生のご後任（埼玉GSV）について次回委員会にて検討する。横浜SVR支援制度（グループ版）は柏木先生ご継続。
- ・PSV開催予定について
10月、2月のオープンキャンパス時に行う予定。告知方法、発送方法（別チラシと同封する等）、については次年度早めに検討する。

3. グループ・スーパービジョン修了証について

- ・修了証書＜案＞と下記について了承。
 - ①発送できるところから順次作成し発送予定。
 - ②複数回受講者には複数枚送付。
 - ③発行年月日は2016年3月31日。
 - ④発行者、役職名の確認
 - ⑤捺印は総合研究所之印。
 - ⑥修了証書送付の旨をHPに掲載し、届いていない方へのお知らせとする。
- ・中村先生へ修了証書に添える手紙作成依頼→了承。

第5回委員会：2月25日（木）11：00～12：00

場 所：4号館4405室

出席者：柏木 昭、中村 磐男、牛津 信忠、助川 征雄、相川 章子

欠席者：田村 綾子

事務局：木下 元、辻本 修、小野 逸穂（記録）

I. 前回議事録承認

Ⅱ. 報告事項

1. 個別スーパービジョン

- 助川 2名実施
- 相川 1名実施
- 田村 1名実施、1名予定
- 大野 1名実施

2. グループ・スーパービジョン

柏木 聖学院大学：9名 2/12 第9回まで実施、今後の予定は3/11 最終日（参加者へ修了証）

石川：本年度から石川県精神保健福祉士協会にて、I さん(大学院卒業生)が引継いでいる。

助川 さいたま市こころの健康センター：2015 年度3 回実施、次年度も継続

相川 杜の家：月1 回研究室でピアサポーターのグループ（4 名）のサポートを実施、アドバイザー契約 2016. 7 月まで継続

3. スーパーバイザー支援制度

相川 Mさん 10/27、1/21、3/31(予定)

田村 E さん（前年度受講者）9 月受講申込提出、10/21、12/18、3/2(予定)

4. スーパーバイザー支援制度グループ版

柏木 横浜市戸塚4 名 11/24 実施、最終回3/22（予定）、毎月第4 火曜 全5 回
（申込書が全員分提出され請求書送付）

5. その他

事務 ・3 月実施分の報告書は実施後早急にご提出のお願い（年度末伝票処理のため）
・年次報告書の原稿（はじめに、総括）提出のお願い（締切3 月末）。

III. 協議事項

1. 柏木先生のご後任（聖学院大学 GSV）について

助川先生から田村先生へご依頼することになった。

2. 次年度 PSV 日程について

現時点では、秋 PSV は10/1（土）、春 PSV は2/4（土）。

3. ピア・スーパービジョン（2016. 2/13(土)）について

・SWnet の口コミに力を入れてもらう等検討が必要。

・相川先生よりご提案

木下大生先生へ SVC 委員会参加依頼（社会福祉士の方々へ PSV が広がる可能性

【資料2】

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催
人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネットー卒業生を中心とする福祉のネットワーク)共催

2015年10月10日(土) 10:00(受付9:30)～15:30 終了予定
聖学院大学4号館4階 第一・第二会議室

第16回 ピア・スーパービジョン



プログラム



総合司会 山田裕太 SWnet

講演/鼎談司会 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授

10:00～10:10

挨拶

中村磐男
深瀬久博

聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長
SWnet

10:10～11:10

講演

「スーパービジョンのすすめ」

講師 柏木 昭

聖学院大学名誉教授・聖学院大学総合研究所名誉教授
人間福祉スーパービジョンセンター顧問

11:10～11:15

休憩

11:15～12:00

鼎談

柏木 昭・深瀬久博 098W094・川田法子 104W093

12:00～13:15

SWnet 主催ランチ交流会(参加の場合:実費1,000円程度)

13:15～15:20

ピア・スーパービジョン

13:15～13:30

導入 助川征雄

聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR

13:30～13:45

参加者自己紹介

13:45～14:45

グループ・ディスカッション

14:45～15:00

グループ発表(全体共有)

15:00～15:20

コメントとまとめ 柏木 昭

15:20～15:30

閉会

牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長

♪ 懇親会

プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。参加歓迎・会費別途
懇親会会場:「北海道」大宮店(大宮駅東口徒歩1分) TEL03-6161-5234

♪ 学生バス

当日は無料で学生バスをご利用いただけます。時刻表は本学HPをご確認ください。



聖学院大学総合研究所
人間福祉スーパービジョンセンター主催
人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット
—卒業生を中心とする福祉のネットワーク)共催

第17回 ピア・スーパービジョン

2016年2月13日(土) 10:00(受付9:30)～15:30 終了予定
聖学院大学4号館4階 第一・第二会議室

プログラム

総合司会 山田裕太 SWnet

10:00～10:10 挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部長
SWnet 深瀬久博 (098W094)

10:10～11:10 講演会
発題「人生の岐路——20代、30代および40代を顧みて」
発題者 中村 磐男 (なかむら いわお)
聖学院大学こども心理学科特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長

11:10～11:15 休憩

11:15～12:00 パネルディスカッション
パネラー 柏木 昭 (聖学院大学名誉教授 人間福祉スーパービジョンセンター顧問)
中村磐男 (発題者)・秀村智香 (102W094)・片岡優 (106W026)
コーディネーター 相川章子 (聖学院大学人間福祉学科教授)

12:00～13:15 SWnet 主催 ランチ交流会 (参加の場合: 実費 1,000 円程度)

13:15～15:20 ピア・スーパービジョン
13:15～13:30 導入 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授
13:30～14:45 グループ・ディスカッション
14:45～15:00 グループ発表 (全体共有)
15:00～15:20 まとめ

15:20～15:30 閉会

♪ 懇親会
プログラム終了後、SWnetの企画による懇親会があります。参加歓迎・会費別途
懇親会会場: 「北海道」大宮店 (大宮駅東口徒歩 1 分) TEL03-6161-5234

♪ 学生バス
無料で学生バスをご利用いただけます。時刻表は掲示や本学 HP でご確認ください。

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催 第16回ピア・スーパービジョン報告



上段：柏木昭名誉教授 相川章子教授 山田裕太氏(総合司会)

2015年10月10日(土)、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第16回ピア・スーパービジョン」(聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet〔聖学院ウェルフェアネット〕共催)が行われた。午前中(第1部)に講演及び鼎談を行い、ランチ交流会を挟んだのち、午後(第2部)にスーパービジョンを行い、少人数グループでの討論による共同研究を行った。開会の挨拶は、中村磐男氏(聖学院大学こども心理学科・人間福祉スーパービジョンセンター長)、及び深瀬久博氏(SWnet)が務められた。第1部の講演は、柏木昭氏(聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問)が担当された。鼎談は、柏木昭氏、深瀬久博氏、川田法子氏が担当され、相川章子氏(聖学院大学人間福祉学科教授)が司会を担当された。午後のスーパービジョンでは、冒頭で助川征雄氏(聖学院大学人間福祉学科教授・人間福祉スーパービジョンセンターSVR)がミニ・レクチャーを行い、柏木氏が最後のコメントとまとめを述べられた。

はじめに柏木氏による講演「スーパービジョンのすすめ」の内容を端的に言及する。

ソーシャル・ワーカーとクライアントとの関係

は、相互主体的でなければならない。ワーカーがクライアントに対して受動的になるのではなく、「協働」的に関わり合う。これがソーシャルワーカーの専門性にとって重要なことである。ワーカーは、クライアントのことに傾聴し、その裏にある気持ちを受容しなければならない。ワーカーは、想像力と注意力、そしてコンパッション(compassion、共に痛みを担う、comは「共に」の意、passionは「受苦」の意)の持ち主であるべきである。このコンパッションを語る文脈で、柏木氏は、キリストの十字架の受苦愛に言及されたことが印象深い。

さてスーパービジョンの定義は、7つ挙げることができる。

1. 職員の力量の開発と専門性の発達。
2. クライアントへのサービスの向上。
3. 熟練した専門職員の初級職員に対する専門的支援。
4. スーパーバイザー(SVR)とスーパーバイジー(SVE)は原則として同一職種。
5. 異職種間の相談助言はコンサルテーション。
6. クライアントとの「かかわり」についてSVE自身による点検をSVRが支援する力動的過程。
7. 職員の実践が施設・機関の機能とのかい離を起こさないように、SVRが支援する過程である。



上段：助川征雄教授 深瀬久博氏 川田法子氏 柏木昭名誉教授

ソーシャルワーカーの職務における苦悩を、自己解決的に解消する作業は、とても困難な作業である。よって、スーパービジョンを行うことは、互いに、積極的に問題解決に取り組む姿勢として相応しい。スーパービジョンによって解決を得るために重要なことは、SVRがあくまでもSVEのサポートに回れるかどうか、である。

スーパービジョンの目的は、私達の抱く常識的枠組を超えて、クライアント自身の思いに沿う「かわり」が持てているかどうか、の点検である。そして、この課題をスーパービジョンによって克服するために重要なことは、SVRがSVEに対して「かわりの保障」を持っているかどうか、である。

「鼎談」では、聖学院大学の卒業生である深瀬氏、川田氏両名を交え、柏木氏の講演へのレスポンス及びディスカッションを行った。川田氏が、「講演によって、クライアントとのかかわりを一番重視しなければならないことを確認したが、事務処理などの多忙さ等で、つい見失いがちになるという課題を抱えている」、と述べられた。それに対して、深瀬氏は「自分の限界を知り、できることからかわりを捉えていくことが大切ではないか」と言及された。この意見に対して柏木氏も深く同意された。

ランチ交流会は、スーパービジョンを行う信頼関係を培うのに適切な、温かな雰囲気になった。特に会の最後に、助川氏のギター伴奏によって「今日の日はさようなら」を合唱したひと時は大変印象深い。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、実際にスーパービジョンを行った。内容は議論の性質上割愛させていたが、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。出席者22名（講師含む）。

（文責：五十嵐成見［いからし・なるみ］ 聖学院大学大学院博士後期課程）

本

臨床死生学研究叢書

ご注文は出版会HP <http://www.seigress.jp/> または、お近くの書店、Amazon.co.jpからお願いいたします。

臨床死生学研究叢書 5

希望を支える 臨床生死観

窪寺俊之 編著

A5判 196頁 4,000円（税別）

2015年2月発行

関根義夫・大貫隆・石丸昌彦・
黒鳥偉作・窪寺俊之 著



臨床死生学研究叢書 4

臨床現場からみた生と死の諸相

平山正実 編著

2013年4月発行 4,000円（税別）

平山正実・白井幸子・船戸正久・河 正子・黒鳥偉作・
竹内公一・尾形妙子・大西奈保子 著

臨床死生学研究叢書 3

死別の悲しみを学ぶ

平山正実 編著

2012年2月発行 4,000円（税別）

白土辰子・田中久美子・三輪久美子・窪寺俊之・
竹淵香織・平山正実・山崎浩司・小高康正・中村鈴子・
金子晴勇 著

臨床死生学研究叢書 2

死別の悲しみから立ち直るために

平山正実 編著

2010年3月発行 4,000円（税別）

大西秀樹・小島ひで子・門林道子・大西奈保子・
五十子敬子・吹抜悠子・高橋克樹・窪寺俊之・
平山正実 著

臨床死生学研究叢書 1

死別の悲しみに寄り添う

平山正実 編著

2008年6月発行 3,400円（税別）

梅谷 薫・安達富美子・海野志ん子・村上典子・
村上純子・宗村弥生・小高康正・平山正実 著

お問い合わせ先



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:<http://www.seigress.jp/>

【資料 4】

聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催

第 17 回ピア・スーパービジョン報告



2016 年 2 月 13 日（土）、聖学院大学 4 号館第一・第二会議室を会場に、「第 17 回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet [聖学院ウェルフェアネット] 共催）が行われた。午前中（第 1 部）に講演及びパネルディスカッションを行い、ランチ交流会を挟んだのち、午後（第 2 部）にピア・スーパービジョンを行った。開会の挨拶は、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部長）、及び深瀬久博氏（SWnet）が務められた。牛津氏は、ローマの信徒の手紙第 5 章 3～4 節を引用（「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」）され、忍耐は、人間が与えられた力であり、社会福祉において大切な要素である、と語られた。

第 1 部の講演は、中村磐男氏（聖学院大学こども心理学科特任教授、人間福祉スーパービジョンセンター長）が担当された。パネルディスカッションは、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）、中村磐男氏、秀村智香氏、片岡優氏が

パネラーを務め、相川章子氏（聖学院大学人間福祉学科教授）がコーディネーターを務められた。ランチ交流会を挟んだ後、午後のピア・スーパービジョンでは、冒頭で相川章子氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

午前の講演は、「人生の岐路—20 代、30 代および 40 代を顧みて」と題されて行われた。中村氏ご自身の研究者としての半生を、研究機関に携わってきた中での仕事や葛藤などの経験を踏まえつつ、「自己開示」の行為として語られた。また最後には、『鏡の国のアリス』や『ゲド戦記』、『度十公園林』などファンタジーに属する物語の文章を紹介し、人生を見つけるためのヒントを提供された。

パネルディスカッションでは、柏木氏、聖学院大学の卒業生である秀村氏、片岡氏を交え、ディスカッションを行った。柏木氏は、グループ・スーパービジョンの必要性とその意義とを語られ、また、卒業生の二人は、聖学院大学との出会いや、現場で社会福祉に携わっている者としての生の声を語られた。

昼食の際の交流会は、スーパービジョンを行う信頼関係を培うのに適切な、温かな雰囲気に満ちた時となった。

第 2 部のピア・スーパービジョンでは、少人数のグループに分かれ、実際にスーパービジョンを行った。初めに相川氏より、ピア・スーパービジョンの定義や意義などが説明された。傾聴する態度を重んじて、それぞれの問題意識を共有しつつ、課題の解決のために言

葉を交わしあい、最終的には、皆が活力を持つことができるようになるようにすべきことが確認された。



実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただく。一人一人が率

直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。グループ発表の後、柏木昭氏が総括を語られた。スーパービジョンの中で、対話の中で生じた違和感をいかに受容しあうかが重要なことであること、ワーカーがクライアントを対象化してはならず常に主体として受けとめるべきこと、等が語られた。出席者 21 名（講師含む）。

（報告者：五十嵐成見 [いからし・なるみ]
聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化
学研究科博士後期課程）